

全国学力・学習状況調査の結果報告について

4月に実施されました全国学力・学習状況調査の結果の考察がまとまりましたのでご報告いたします。

< 国語 >

	本校平均（正答率％）	全国平均（正答率％）
国語	66	72.8

●全国平均と比較すると、6.8ポイント下回った。観点別に見ると、書く能力は正答率が高いのに対し、話す・聞く能力、読む能力、言語に関する知識・理解の分野の正答率が低い現象は全国の傾向とは似ていた。

◆「生徒質問紙」では、「国語の勉強が大切だと思いますか」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という項目について、「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」の回答率が全国平均よりも高かった。

★国語の授業で学習したことが将来へつながるように、日常生活と結びつけながら学習の指導を行いたい。

< 数学 >

	本校平均（正答率％）	全国平均（正答率％）
数学	52	59.8

●全国平均と比較すると、7.8ポイント下回った。観点別では、数学的な技能が全国平均との差が最も大きく、12.5ポイント下回った。

領域ごとに分析すると、図形分野の正答率が比較的高く、関数分野の正答率が低くなっている。この傾向は全国のものとは変わらない。

◆「生徒質問紙」では、「数学の勉強は大切だと思いますか」「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という項目について、それぞれ全国平均を10ポイント前後上回っている。しかし、「数学の勉強は好きですか」「数学の授業の内容はよく分かりますか」という項目についてはどちらも全国平均を下回った。

★生徒質問紙による調査から、数学の学習について必要性を感じながらも苦勞している様子が伺える。調査結果を踏まえ、各領域において改めて基礎基本の定着を目指し、授業改善を図っていききたい。

< 英語 >

	本校平均（正答率％）	全国平均（正答率％）
英語	52	56.0
英語（話すこと）	21	30.8

●全国平均と比較すると、4ポイント、話すことに関しては9.8ポイント平均正答率を下回ったが、全国平均正答率に比べて高い正答率やほぼ同じ設問は次のとおりである。

・「日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる」5ポイント高い。

・「日常的な話題についての、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる」2ポイント高い。

・「語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる」「基本的な文法（現在進行形）を理解して、応答することができる」ほぼ同じ。

・4領域に関して「聞くこと」は正答率65％で全国平均より2ポイント減、「読むこと」50％、「書くこと」40％で5ポイント減、「話すこと」は21％で9ポイント下回った。

◆「生徒質問紙」では、「あなたは将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか」という項目は54.1％、「英語の授業で学習したことは、将来、役に立つと思いますか」に対しては87.8％で、全国平均を上回っているが、「英語の勉強は好きですか」に対して48.9％、「英語の勉強は大切だと思いますか」に対して81.6％で、全国平均を下回った。

★基礎・基本をさらに定着させ、指導のポイントとして「自分の考えや気持ちを表現（話す・書く）する力」を伸ばす取組を充実させていききたい。

<生活・学習意識調査>

- ・朝食を毎日きちんと食べている生徒は全国が約82%なのに対して本校は約67%。逆に食べていない生徒は全国が2%に対して、本校は6%と3倍となっている。
- ・起床に関しては、決まった時間に寝る生徒、起きる生徒の割合が全国に比べていずれも10%強下回っている。
- ・校則に関しては守っている生徒が大半であると感じていたが、結果は42.9%と低かった。
- ・いじめに関しては、「いかなる理由があってもいけない」と回答した生徒は全国に比べて10%ほど下回っている。
- ・「人の役に立つ人間になりたい」と回答した生徒は67%で全国平均と同程度だった。一方で、「自分によいところがあるか」の質問で「ない」と回答をした生徒は16%、「将来の夢や目標があるか」については、「ない」と回答した生徒は20%でいずれも全国平均の2倍となっている。

<学校としての今後の取組について>

学習面において、落ち着いた取組をすることができていますが、その授業内容について、知識や考え方を身に着けるための復習の時間を家庭で確保できている生徒と、そうではない生徒がいます。家庭学習を全くしていない生徒が1割近くいるのも心配です。できるようになることが楽しいという学習面での達成感・充実感をもたせ、計画立てて学習に臨んでいる率も低いのでその点も指導していきたいと思います。読書に関しては、「好き」の回答は25%ですが、「全くしない」回答が半分以上を占めています。学校でも更に取組み充実させていきたいと考えています。

校則に関しては「本校の生徒の考える」きちんと守っているという意識が高いのではないかと考えます。これは本校生徒の長所であり引き続き道徳、特別活動などを通して学校生活全般で培っていけるような取組を進めていきます。「いじめは許さない」については、F p hの理念を徹底させるとともに常に教師から発信していく必要があると考えています。人の役に立ちたいと思う優しい気持ちの生徒が多い反面、自分に自信がなく、夢や目標をもつことができない生徒が多いです。さまざまな活動等を通して、自尊感情を高めていくことが必要であると考えています。

家庭生活で、「家の人と学校の出来事を話す」率は全国平均より上ですが、「全くしていない」率は5ポイント多く、両極に分かれています。規則正しい生活リズムで1日を過ごすという点に関しては課題がある生徒も少なからずいますので、食事をしっかりとることや起床・就寝の時間を含めた毎日のリズムある規則正しい生活を心掛けさせたいです。それには、ご家庭の協力が重要となってきます。ご家庭で学習状況の確認も含めて、学校での様子を生徒と保護者間で十分に対話や会話ができる環境づくりに協力をお願いします。

